



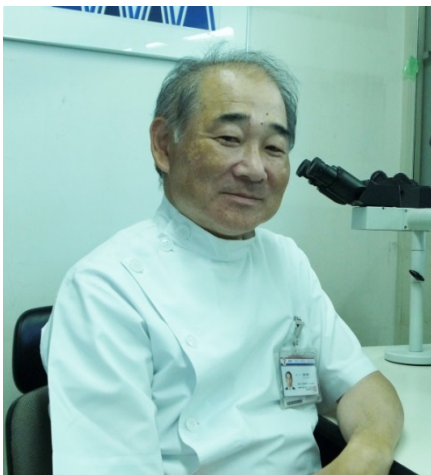
大学院だより



平成25年度 Elective Study（カナダ・アルバータ）

新体制のスタートにあたって

平成25年6月1日から大学院歯学研究科は新たな体制となりました。大学院研究科長、教務部長、学生部長そして事務部門からご挨拶申し上げます。



大学院歯学研究科長 田崎雅和

本年6月1日に東京歯科大学大学院歯学研究科長を拝命いたしました田崎です。また時間同じく8月に、大学は稲毛校舎から水道橋校舎本館・新館へと機能を集約し、移転することになりました。大学院もその変化に臨機応変に対応していかなければなりません。

大学院の目的は優れた研究指導者および歯科医学研究に精通した高度専門職業人としての歯科医師を養成することです。今までの実績を継承し、研究機能の移転に対応しつつ、さらなる飛躍をしなければなりません。そのためには教職員のご支援・ご鞭撻およびご理解ならびに大学院生の意見と理解とを取り入れ、大学院における研究と教育の質を高めてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



大学院教務部長 東 俊文

新体制の始めにあたり、ご挨拶を申し上げます。私は引き続き教務を担当することとなりました。皆様のご協力に感謝申し上げますと同時に倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

4月から7月にかけては皆さんにご協力いただきほぼ予定通りに講義、セミナーをすることができました。大学院生諸君はかなり大変であったと思いますが、進級に関わるような事例もなく、ご講義くださった諸先生はじめ各講座の諸先生、大学院生の皆さんに厚く御礼申し上げます。これから

4年生諸君は集大成として論文作成、論文審査があります。是非頑張ってくださいと思います。

本年度は移転という大事業があり、私もこの原稿を書いている前日に水道橋に引っ越してまいりました。当然まだ どこに??? どうやって??? の状態ですが、心新たに頑張ろうという気分です。皆さんも先輩方と違う状況で手さぐりの感じが否めないかとは思いますが、研究は常に新しいことの連続です。前例と同じでは進歩がありませんから、若い力で突破していただきたいと願っております。後期の授業は選択以外ほとんどありませんので、是非自己研鑽に励み大いなる成果を目指していただきたいと思います。また、新しい状況で不安もあると思います。教務としても皆さんをできるだけサポートしていきますので、いつでもご相談ください。

新しい環境には、逆にワクワクした感じも皆さん感じていると思います。研究は先の見えない不安とワクワクした感じが常に共存する所に魅力があるものです。日本は未曾有の長期低迷から徐々に脱しつつあり、特に科学、医療分野には国民全体の大きな期待が向けられております。そこに答えるのは第一線で頑張る皆さんです。是非若き情熱を存分に注入し有意義な大学院生活を送られるように希望します。



大学院学生部長 齋藤 淳

この6月より学生部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。末石前学生部長は、緻密かつ的確に学生部の業務をこなし、大学院生には温かく接してこられました。私に務まるか不安もありますが、東京歯科大学の明日を担う大学院生のために力を尽くす所存です。

これまで大学院は井上前研究科長および東教務部長のリーダーシップのもと様々な改革が行われ、現在では充実したカリキュラムが構築されています。この陰には百崎さんをはじめとする事務の方々の大きな支援がありました。今後は指導側と大学院生の上に立ち、コミュニケーションを円滑にして、これまで以上に「大学院生中心」の充実した学習と研究の環境整備に心を配りたいと思います。

大学移転という変革のなか、大学院生には様々な対応が求められています。研究を中断し新たな研究施設でそれを再開し、継続して結果を出すには大変なエネルギーが必要です。しかし、本学の歴史をひもといてみれば、移転の度に研究面でも大きな飛躍を遂げています。また、その陰には先輩方一人ひとりの地道な努力があったのだと思います。もう既に大学院生たちは移転プロセスにおいて大きな貢献をしておりますが、今後も皆で力を合わせて、一つひとつ問題を解決していき、素晴らしい研究成果につなげていきましょう。



口腔科学研究センター 百崎和浩

大学院の事務体制は、教務課から平成23年1月に移管されました。前井上研究科長の下では、必修科目の設置、大学院セミナーの必修化、学位論文審査手続の変更といった改革が行われてきました。そして本年6月からは田崎研究科長の下、新たな体制がスタートしました。今年度は水道橋へのキャンパス移転がありましたが、新体制の下、すでに新たなカリキュラムの検討が始まっています。

大学院三役の田崎研究科長、東教務部長、齋藤学生部長をサポートし、大学院生には、関連するさまざまな情報を的確にお伝えできるようにしたいと考えています。今年度からは奨学金の事務も大学院事務室で行うこととなり、教務部、学生部の業務両方を担当することとなりました。

まだまだ至らない点も多いかと思いますが、先生方、大学院生の皆さんからの意見も取り入れながら、三役の先生方とともに業務を遂行したいと考えております。よろしくお願いいたします。



口腔科学研究センター 田島大地

平成25年4月1日付けで市川総合病院の庶務課人事係から口腔科学研究センターへ異動となりました田島と申します。大学院の事務も兼ねて業務を行っています。

千葉校舎の雰囲気慣れかけたところで、水道橋校舎へと移転になり、今年は環境が変わり過ぎて忘れられない1年となりそうです。現在、事務室は水道橋校舎本館7階になります。まだ慣れない事も多く、ご不便をおかけする事もあるかと思いますが、頑張ってお参りますので、宜しくお願い致します。

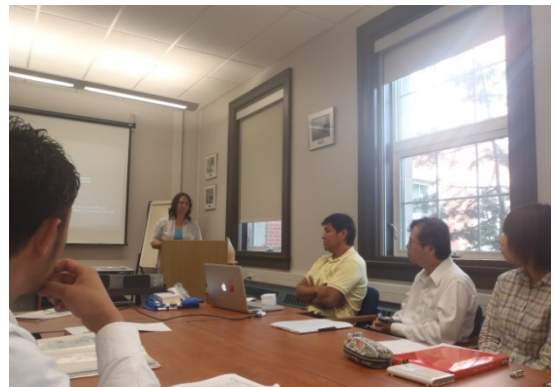
平成25年度 大学院 Elective Study

海外研修基礎コース in カナダ・アルバータ報告

オーラルメディスン・口腔外科学講座
3年次 村上 正治

今回、鹿児島大学の学生と共にカナダでの海外基礎研修プログラムに参加してきました。今研修では、「大自然を学ぶ」をテーマにあらゆる分野の講義や見学をさせていただきました。

一言に大自然を学ぶといっても、その内容は多義に渡り、あらゆる側面からカナダの大自然を見



て回り、その自然を守るための歴史や技術、自然と共存していくビジネスの成功例を学ぶことができました。

最初は今回の研修を歯科とどのように絡めていくかを考えていましたが、世界の第一線で活躍している方々の講義や、現地大学生や鹿児島大学の学生との交流を通じて、その考えは非常に小さいことであることに気が付きました。人と人との繋がりの大切さや、今までの自分にはなかったような考え方を目の当たりにし、自分の視野を広げることができました。また、その視野を更に広げるには英語というコミュニケーションツールが必須だということも痛感する研修でした。

今後は、自分の目標に対して、どうしたらそれを達成できるのか、そのためのプロセスには何があるのか、を常に考えながら行動していきたいと思えます。

歯周病学講座 2年次 武内 崇博

本研修に参加したのは、海外で自己表現したり、自分の専門外の人々と交流しその分野を学ぶことにより、教養となり刺激になればと期待を込めてのことでした。また大学院生となり更なる英語力の必要性を感じており、英語学習のモチベーションを上げるきっかけにもなればと考えました。結果として、10日間の研修はかけがいのない経験となり、沢山のことを学ぶことができました。特に私の印象に残ったことを3つにまとめたいと思います。



まずはカナダの自然と、それを保護しようとする取り組みです。カナダは世界で2番目の広大な国土を持つ国です。全ての景色のスケールが広大で、壮大な自然の数々に心を奪われました。観光旅行であればここで満足してしまうのですが、日程の前半でアルバータ大学での講義や企業の訪問等により、カナダの自然の成り立ちや先住民族



の考え方、また保護に対する姿勢も学ぶことができました。様々なことが絡み合って、あの広大な自然が存在するのだと感じました。



2つ目は様々な方と英語でコミュニケーションがとれたことです。アルバータ大学の学生と交流会を開いて頂いたり、講演ごとに英語で質問をする機会がありました。また観光地ではない場所への訪問が多かったため、ふとしたトラブルの際に英語を話す機会がありました。物怖じせずはっきりと伝えようとする、そしてシンプルな英語で結論から述べるのが大切だと感じました。改めて自分の英語力の低さを痛感しましたが、今後の英語学習の方針を立てることができました。

3つめは、海外で活躍する日本人にお会いできたことです。企業のトップや大学の研究員など様々な職種でしたが、皆共通して情熱と自信そしてバイタリティーに溢れていました。このような方々と接し、歯科という狭い世界の中で自分なりに頑張っているつもりだったことが情けなくなると同時に、今後現状に満足することなく、広い視

野と情熱を持って研究や臨床に励まないといけな
いと感じさせられました。またこの経験を様々な
人に伝えていけたらと思います。機会があれば海
外留学をしてみたいとも感じたので、その日の為
にも英語の学習は怠らないようにします。

今回、このような機会を与えて下さった井出学
長、田崎大学院研究科長をはじめ、関係各位に感
謝申し上げます。

またこの様なすばらしいプログラムを構築され
た鹿児島大学北米教育センター長の井手祐二先生
に深謝いたします。不在中にいろいろとサポート
していただいた歯周病学講座および保存科の皆様、
ありがとうございました。



海外研修基礎コース in アメリカ・ カリフォルニア 報告レポート

歯周病学講座
2年次 鈴木 瑛一

9月中旬に大学のご厚意により、アメリカ・カリ
フォルニア州での海外研修の機会を得ることがで
きました。本研修に参加した理由の一つとして、
シリコンバレーに本拠地を置くApple, Googleとい
った一流企業や、世界でも屈指の名門大学である
スタンフォード大学、カリフォルニア大学バーク
レー校、サンノゼ州立大学への訪問がありました。



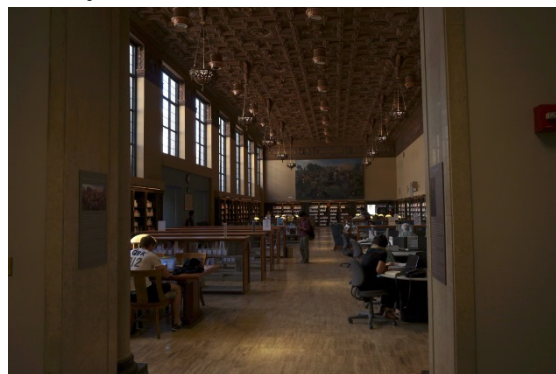
Google, Appleでは海外の一流企業に勤務してい
る日本人の方の話を聞くことができました。出勤
時間は特に決められておらず、自分でスケジュール
を立てて仕事を行うという企業体制や、福利厚生
の充実など、日本との大きな違いに驚きを感じま
した。

スタンフォード大学では、医学研究ラボを見学
させていただきました。その際、一人の研究者の
方からは、自分の行っているもの全てに常に疑問
を持ちなさいと激励していただきました。日頃実
験や臨床における疑問は大切にしてきたつもりで

したが、改めて身が引き締まる思いでした。また、
8180エーカーという広大な土地は想像を超えてお
り、青々とした芝生の上で学生たちはフリスビー
をしたり、教科書を読んでいたりと、素晴らしい
環境で思い思いに学生生活を満喫していました。

その他、バークレー校やサンノゼ州立大学の訪
問では、大学生・大学院生と日々の生活について
話す機会がありました。勉強や作業時間は本学の
学生と差がありませんでしたが、具体的な目標の
建て方や、そのために何をすべきか考えることが
足りていないと感じました。大学内では、ディス
カッションしている姿をそこら中に見ることがで
き、みな真剣かつ楽しそうでした。

研修期間中はほぼ毎日、シリコンバレーで活躍
されている日本人によるパネルセッションや、講
演が行われました。皆自分の仕事に誇りを持って
おり、活き活きと自らの体験を話してくださいま
した。自分は歯科医師として一歩を踏み出したば
かりですが、もっと自分の仕事に対し真摯に取り
組み、Specialistになるよう努力しなければと感じ
ました。



共に研修に参加した大学生や大学院生との会話
も自分にとって大きな刺激となりました。参加者
の多くは普段関わることない分野を専攻している
ため、カリキュラムの違いや研究への取り組み方

など、どの話も新鮮で興味深く、視野を広げることができました。毎晩遅くまで研究や将来のことについて語り合いましたが、学部の1、2年の頃から研究に取り組んでいる人たちもいましたので、自分も研究者として負けないよう努力しなければと思いました。

抜けるような青空の下、アメリカでの研修はかけがいのないものとなりました。ぜひ後輩たちに

臨床検査病理学講座
1年次 Tungalag Ser-Od

I participated in the Elective Study Program which was held in California, USA between 14th September and 23rd September, 2013. Our team was made up of 32 students representing 9 universities from around Japan and we all had different professional backgrounds and perspectives which made the interaction more interesting. It was a great honor for me to be selected and took part in this unique event.

Throughout our stay in California we were provided with an accommodation in Santa Clara, Silicon Valley. As you probably all know, the Silicon Valley is the home to many of the world's largest technology corporations and being leading hub for innovation and development not only in the USA, but also in the world. We were taken on a guided tour around Google, Apple and Intel headquarters. Our first stop was at Google Main Office. Google has some 35 thousand employees of different ethnic and cultural background. We were welcomed by Natori san (Advertisement Technologist) and Kuramochi san (Programmer) at the Google Head Office.

Another highlight during our visit at Apple was meeting with Kida san (Apple Senior Manager of Development Section) who worked closely with Steve Jobs. Apart from these eye opening and very informative visits, we also had the opportunity to enjoy some downtime visiting Intel Museum and

もこのような体験をしてもらいたいと強く感じました。最後に今回の貴重な機会を与えていただいた井出吉信学長、大学院関係の皆様、またご指導いただいた井手祐二北米教育研究センター長に御礼を申し上げます。そして研修への参加を勧めてくださった齋藤 淳教授、ならびに不在中サポートしていただいた歯周病学講座、保存科の皆様に感謝いたします。

shopping at Intel Store.



Greatest of all the other highlights we had perhaps was our visit to the universities – Stanford and the UC Berkeley. The following days, we went to the Medical Laboratory at the Stanford University and the Engineering Department at the UC Berkeley respectively and were introduced to some of the projects they were working on at the time. A student at the Stanford University for example was working on creating microchip which will be used for diagnostic purposes, especially for early stage cancer diagnosis. We learned also during our visit to the Neuro Sky venture company that they created 130 brain training games and educational apps and one of their core area of focus is the futuristic programs in the medical field to help prevent possible threats of diseases. During the US-Japan Forum which was held at San Jose University, we had discussions & presentations on various issues and setbacks caused by the Great East Japan earthquake.



Last but not least we had professional session during our dinner party on our second day and some members of the Japanese Bio Community including a researcher at UC Berkeley and IT developer at Google shared their first-hand experience of the American culture with us. On our sixth day, we also

had visitors (final session) – the CEOs of venture companies including Trans Pacific Ventures, Pixera Corporation, Professors of Kagoshima University as well as the Senior Manager of Apple as I mentioned earlier.

We also enjoyed sightseeing of major landmarks including the Golden Gate Bridge and the Union Square as well as the Fisherman’s Warf at San Francisco.

The entire week we spent in the US was full of exciting and interesting activities and we were left with great memories and impression of our visit to the United States of America. It was my first visit to the country and I would like to express my heartfelt thanks to my school for giving me such a unique opportunity. I wish more and more foreign and domestic students from Japan have the chance to explore in the future.

学生会より

平成25年度大学院学生会総会

大学院学生会長 山村啓介



平成25年7月17日水曜日午後6時より水道橋病院13階B教室において平成25年度大学院総会が開催されました。学長の井出吉信先生をはじめとして、研究科長の田崎雅和先生、学生部長の齋藤享先生から激励の言葉を頂戴しました。

また今回は初めて水道橋校舎で本会が開催されたこともあり、総会に先立ち新校舎、医局、実

験区などの見学が実施されました。今回の参加者数は例年になく全大学院生の大半を占め、平成24年度の大学院学生会会計報告、平成25年度活動予定を承認して頂きました。また、「学生教育研究災害保険・学研災付帯賠償責任保険」への新1年生への加入金を大学院学生会費から支出する事を承認していただいた事で、現在その手続きをしています。

今後の活動予定として、東歯祭の無料歯科相談所、勉強会などの紹介をさせていただきました。今年度入学した大学院の先生方がこれから過ごす4年間は、講座の枠にとどまらない様々な活動をして頂きたいと思います。そこで、多くの講座の先生とコミュニケーションを持つ場として、また、ご要望に対する意見交換の場としても大学院学生会があるということを改めてご紹介させていただきました。移転を控えた中での研究計画は思うように進まないことも考えられますが、大学院学生会としては大学院生の声を聞き、研究環境をより

良い方向へと改善できればと考えております。

今回の総会でも同じ志をもった大学院生



井出学長、田崎大学院研究科長からの激励

が一堂に集まり、コミュニケーションをはかることができ、大変有意義なものとなりました。



水道橋校舎本館 13F の会場で

編集後記

大学院だより 8号は新体制からのメッセージと **Elective Study** について特集しました。異常な暑さだった夏の間中、大学院生たちは研究施設や講座の引っ越しに汗を流していました。講座の枠組を超えて、皆が協力しあって引っ越しに取り組む姿は素晴らしかったです。そこには少しでも早く環境を整えて研究を開始したいという熱い思いがありました。心の中には不安もあるかもしれませんが、大学の皆が応援していますので、是非前向きに実験に打ち込んでください。水道橋で新たに取り組んだ研究が花開き、素晴らしい論文として世に出ることを期待しています。
(齋藤 記)

